

フィーノ株式会社

## 「自分の強みを活かす チームビルディング」

～自走するチーム作りへ～

### 研修企画書

主役は参加者。自ら考え課題の本質を知り、進むべき道を開く実践型研修。

## 「自分の強みを活かす チームビルディング」研修企画書

ベストセラー「HELPING」(エドガー・H. シャイン著)と、「さあ、才能に目覚めよう」(マーカス バッキンガム(著), ドナルド・O. クリフトン(著), 田口 俊樹(翻訳))をベースとし、新しいチームメイキングの在り方をチームで考え、実践体得できるように研修化しました。SECIモデルの意義を体験的に理解し、現場の実践に直結した支援能力を養成します。この研修は、参加者による対話を重視します。参加者が自ら問題解決策を見出せるようになるプログラムです。

### ■趣旨

主役は参加者。「対話」や「アイデア・意見の表出および共同化」の過程を繰り返すことにより、未来志向で問題解決のできる場が創出される。1対1の意見交換や全員参加の交流型ワークショップ、意見の表出を助けるマインドマップ等の各種ツールが活用される。講師から学ぶだけの一方向的研修ではなく、参加者が自ら考え、課題の本質を知り、進むべき道をひらく実践型の研修である。

#### 1. コンセプト

研修の受け手が本当に望む、信頼のできるチームメイキングとは何か——この問いの答えを参加者自身が未来志向で考え、具体的な行動プランをたてて実行し、継続的改善につなげるまでの一連のプロセスを体得する。

#### 2. ゴールイメージ

参加者は、自らの現場と密接に関連した事例を題材とし、SECIモデル(暗黙知と形式知の知識スパイラル)の実践によって経験知を活用できるようになり、現場での「行動による学習」を知識の検証および内面化のプロセスとして主体的に継続する。この上記プロセスを繰り返し、変化する現場で柔軟に新しい解決策を生みだしていく。働く人それぞれが自分の役割、ならびに存在に意義を見出す。自らの行う支援が定量的に検証可能な成果につながり、しかも被支援者の幸福感にもつながっていくことを実感できる。本研修の参加者は、自分の所属する支援チームがより価値の高い支援を実践できるように、チームの成長を促す主体的なプレーヤーとなる。

#### 3. ターゲット

- 対象： ①ダイバーシティーを重視したチームメイキングを必要としている方  
 ②正解を求めず、新しく解を作りだすことにコミットし実行しようとしている方

#### 4. チームで解を導くためのプロセス



### ■研修の目的

1. 参加者の自らの役割と限界を認識し対話を通して対象者が何を望んでいるのかを察知できるようになる
2. ヘルピングの理論と、現場に直結したチームによる実践を、対話とファシリテーション手法を通して習得する
3. 多様性をよりよく活用できるような取組と、現場に直結したアクションを生成し、柔軟な解決策を創出するプロセスを学ぶ

## ■プログラムイメージ 研修ファシリテーター1名体制

時間	プロセス	概要	内容
1日コース			
9:00	関係性作り	<b>■ Introduction</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイスブレイク・学習の目的</li> <li>自己紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス全体の雰囲気づくりとグループでのコミュニケーションを重視したワークを行います</li> <li>本日の目的と達成したいゴール設定を行います</li> </ul>
		【L】【GW】【CD】	
休憩 5分			
9:30	関係性作り	<b>■ Section1「自分を知る」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公式・非公式支援の認知</li> <li>主体的な勘定の認知</li> </ul> Work「パーソナルインタビュー」	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人ワークを通し、いままでの自分の振り返りと、自分は何に共感し、行動するのかを知ります。</li> <li>チームメンバーとの共通点を誘発し、関係性作りを深めます。</li> </ul>
10:40	知識集約	<b>■ Section2「社会的経済学・社会劇場とは何か」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>仕事としての支援と、思いやりとしての支援の違い</li> <li>次世代支援型プロセスコンサルタントとしての意義</li> </ul> Work「過去の成功体験を語る」	<ul style="list-style-type: none"> <li>HELPINGの理論を押さえながら、ワークを多く活用して、自らの支援のスタイルを認識します。</li> <li>プロセスコンサルタントについてエキスパートとの違いを事例を通してどのような伝え方が好ましいのか気づきを促します</li> </ul>
		【L】【GW】【CD】	
お昼休憩 45分			
12:00	知識集約	<b>■ Section3「自己認識をする」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>公式・非公式支援のメタ認知</li> <li>主体的な勘定の認知</li> </ul> Work「自分のタイプを知る」	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例を通して、「全員で考える」対話重視の本質発見に取り組みます。</li> </ul>
13:00	本質発見	<b>■ Section4「社会劇場へ出かけよう」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分のアイマスクを外す</li> <li>役割を認識する</li> </ul> Work「そもそも本質的な支援とは何か」	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場の事例を元に、従来のゴール作りと、プラン作成等の「出来栄感」だけにとられることなく、「主役となるクライアントの幸せ感」を価値基準とする支援とはそもそも何か、を対話で深めていきます。</li> <li>マインドマップとワールドカフェを組み合わせ、実際にプロトタイプを作る前の準備としてのワークを織り込みつつ、簡単なルールをもとに講義を交えながらプロセス構築を習得していただきます。</li> </ul>
		【L】【PW】	
休憩 10分			

15:00	フ・トタイプ 作り	<p>■ <b>Section5 「ストーリーを構造化する」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マインドマップでストーリーを共有する</li> <li>・自分の役割を未来志向で考える</li> </ul> <p>Work 「支援のプロットをくみ上げる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ SEICTION4の事例をもとに、どのような場面でどのような支援が必要なのか、自らの経験やこうしたい、という思いを表出化させながら、ストーリーのシナリオをメイキングしていきます。</li> </ul>
16:30		<p>■ <b>Section6</b></p> <p><b>「未来の社会劇場のワンシーンを切り取る」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場でストーリーを実践する</li> <li>・共生というチームワークを実行する</li> </ul> <p>Work 「社会劇場のワンシーンを切り取る」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に未来に起こりうる社会劇場のワンシーンを切り取り、個々人で考えている必要な行動を演じることで、アクションの一步を形成します。</li> </ul>
17:30		<p>Work 「社会劇場のワンシーンを切り取る」</p>	<p>全てのプロセスと理論を振り返ります。</p>
18:00		<p>■ <b>Ending</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質疑応答・まとめ</li> </ul>	
【L】【GW】			

※進行状況により、内容の変更を行う場合があります。

【L】 講義 【PW】 個人ワーク 【GW】 グループワーク 【CD】 クラス討議